

令和元年度 都城市立菓子野小学校 学校評価報告書

※4段階評価（4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

評価項目	評価指標等	方策・手立て	自己 評定	結果の考察・分析及び改善策等	
1 基礎学力の向上	① 基礎的・基本的学習内容の確実な定着	○ 全国学力学習状況調査、県学力状況調査等での成果アップ ○ 単元末テスト、学期末テスト等での目標達成	4	○ 考える力を高め合う学び合いの指導について算数科学習指導の研究を通して、授業の工夫・改善を行い、課題を解決できる児童の育成を図った。 ○ 4月の県学調、全国学調（4～6年）は、国算とも県・市の平均を下回った。しかし、CRTの結果では、全校平均で国語が全国比99.6で僅かに下回ったが算数では、103.8と全国平均を上回ることができた。 ○ 各学級で個に応じた児童への指導を心がけてきた。基本的な学習習慣の定着が身に付くよう指導を繰り返して行く。 ○ 貸出冊数が昨年の同時期を下回っている。学級を挙げて図書室を活用させる。 ○ 家庭学習のアンケート結果では、「よくやっている」と答えた子どもが62%、保護者が29%と差がある。実態を見ると不十分な状況である。更に啓発を図りたい。 ○ ノーメディアの必要性を保護者に伝え、家庭での実践を継続して推進する。	
	② 読書活動の推進	○ 児童の読書意欲向上 ○ 読書の質の向上 ○ 読書習慣の定着 ○ 読み聞かせの全学年実施	3		
	③ 家庭学習の充実	○ 家庭と連携した家庭学習の習慣化 ○ 各家庭での家読の実施 ○ ノーメディアデーの推進	2		
2 豊かな心の育成	① 道徳教育の充実	○ 思いやりの心の醸成 ○ 「特別な教科 道徳」の実践 ○ 環境美化の推進 ○ 花栽培による心の育成	3	○ 道徳の時間の指導は、各学級で確実に指導し、10月のオープンスクールでは、道徳の授業参観を実施した。 ○ 高学年を中心として、朝のボランティア活動を行うことができたが、自主的に行うところまでは至っていない。 ○ あいさつが「よくできている」と答えた割合は、子ども64%、保護者28%、教師0%、地域55%で、十分とは言えない。個人差も大きいので、継続指導が必要である。 ○ 生徒指導主事を中心に学校のきまりを守るように、全児童を全職員で指導する体制をとり、職員間で連携しながら指導にあたった。 ○ 授業や全校で遊ぼう集会などを実施し、異学年との交流を図った。今後も感動体験を教育活動において工夫したり、学級活動等の指導の工夫・改善を図っていきたい。 ○ 毎月アンケートを行って、児童の困り事について早期発見に努めた。F I F委員会では児童の様子について情報を共有し、問題への対応を図った。	
	② 基本的な生活習慣の徹底	○ 規範意識の高揚 ○ 「菓子野っ子よい子の1日」の活用 ○ 気持ちよいあいさつや正しい言葉遣い ○ 無言移動、無言清掃	3		
	③ 人権教育の充実	○ お互いを認め合う心の育成 ○ いじめ・問題行動等の発生防止	3		
3 健康安全教育の推進	① 体力向上プランの確実な実施	○ 運動に取り組む環境整備 ○ 体力テストの結果	4	○ 体力テストの結果では、男子が48項目中28項目、女子が36項目、県平均を上回った。課題の50m走では、男子が2つの学年、女子が5つの学年で県平均を上回った。また、反復横跳びでは、男子が3つの学年、女子が2つの学年で上回った。 ○ 欠席0の日が、12月段階で40回を超え、健康教育の成果が見られる。 ○ 安心・安全メールで緊急事案等について情報を発信できた。 ○ 「弁当の日」は、計画通りに確実に実践できた。全児童が各家庭で意欲的に取り組むことができた。	
	② 健康安全教育の充実	○ 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化 ○ 防災体制の見直しや整備による安全確保 ○ 緊急時等の連絡体制整備	3		
	③ 食育に関する指導の推進	○ 「子どもがつくる弁当の日」の実践 ○ 給食指導の充実	3		
4 ふるさと学習推進	① 地域の教育資源の積極的な活用	○ 地域と関連させた総合的な学習の時間「きらめきタイム」の充実 ○ 伝統芸能の継承	3	○ 各学年の学習活動で地域の素材を生かした学習には、取り組むことができた。 ○ 地域の人材や学習支援ボランティアを活用した学習活動ができていない学年もあるので、学年で1つは実施できるようにしたい。 ○ 保存会の協力のもと、3、4学年が俵踊りを練習し、運動会、庄内ふるさとまつりで披露することができた。 ○ 各地区の祭等や庄内地区ふるさとまつりへの参加も多かった。 ○ ホームページの給食のメニューをこまめに更新することができたが、学校の様子は適時更新できなかった。学校便りは毎月発行することができ、学校での児童の様子等を伝えることができた。	
	② 地域や各関係機関と連携した体験活動の実施	○ 学校支援ボランティア組織の活用 ○ 各関係機関と連携した体験活動 ○ 地域行事への積極的参加	3		
	③ 教育活動の外部への情報発信・情報の共有化	○ 学校だよりの発行 ○ ホームページの充実	3		
5 信頼される学校づくり	① 教職員の資質向上	○ コンプライアンスの遵守	4	4	○ 教職員による事故・違反その他の不祥事は全くなく、コンプライアンスがしっかりと果たされた。 ○ きめ細かな対応を心がけ、さらに、家庭、地域と連携を図っていく必要がある。 ○ 地区の消防団等を活用し、児童にとって身近な防災を学ぶことができた。 ○ 学校運営協議会を計画通り実施することができ、給食交流も実施できた。 ○ 小中一貫教育の実践として、中学校教諭の乗り入れ授業（算数）を実施し、学習の効果を高めるとともに、中学校と連携を図ることができた。今後も、連携を深めていく必要がある。
	② 家庭・地域との連携・協同	○ 家庭・地域との密な連携 ○ 地域と連携した防災			
	③ 学校運営協議会の充実	○ 学校運営協議会を活用した実践			
	④ 一貫教育の充実	○ 庄内地区小中一貫教育、幼保小連携の推進			

次年度方向性についての校長所見

○ 本年度は「よい生活習慣づくり」「体力づくり」「『分かる！できる！』授業づくり」を重点目標として、職員間で共通理解・共通実践しながら指導をしていった。今後とも、「児童の基本的な学習習慣の定着」、「学校生活のきまりを守る」、生活や健康の基盤である「早寝・早起き・朝ごはん」については、学校で継続して指導するとともに保護者・PTAと連携し、定着させていきたい。次年度へ向けて、特に「基礎学力の向上」「豊かな心の育成」「信頼される学校づくり」について、評価指標や手立て・方策を見直すとともに、さらに教育活動を充実させて、本校のめざす児童像へと児童を育てていきたい。